

学校運営委員会だより

いつも本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。
この度第6回学校運営委員会が開催されましたので、内容を報告させていただきます。
学校の取り組みを知っていただき、日々の学校生活に活かしてほしいと願っています。

参加者【方法：対面（校長室）およびオンライン】

学校運営委員：酒井委員長、草開副委員長、天野委員（オンライン）、上野委員（対面）

学校：毛利校長、松下副校長（司会）、宮良主任教諭、石川主任教諭

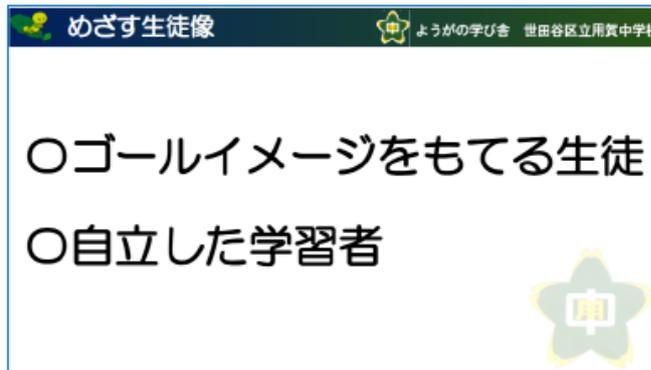
学校からの報告

まず毛利校長より、年度末に向けた学校の様子が伝えられました。学年末テストが目前に迫る中、生徒たちは落ち着いて学習に向き合い、特に3年生は受験に向けて真剣な表情で取り組んでいるとのこと。1年でインフルエンザによる学級閉鎖がありましたが、全体としては元気に登校する生徒が多く、落ち着いて学校生活を送っています。3月には卒業式が控えており、学校全体が少しずつ節目の時期へと歩みを進めています。

非認知能力の研究と授業改善について

今年度、学校では「非認知能力の育成」をテーマに研究実践が重ねられ、一年間の成果が宮良先生・石川先生から報告がありました。先生方同士が授業を見合い、良かった点を中心にフィードバックし合う「研究バディ」という取り組みを継続してきたことで、授業の質が少しずつ高まり、肯定的な内容を中心としたフィードバックで教員も自己肯定感を高め、先生方もさらに「振り返り」を大切にする姿勢が育ってきたと聞き、嬉しく思います。

同時に、生徒が今未来手帳やマンスリー・キャリアシートを使って自分の行動や目標を言葉にし、先生から前向きなコメントをもらう活動が行われました。学校行事の取り組みでは、学年ごとに異なる経験を通して生徒の自己肯定感が高まった様子が見られたという報告もありました。学びと成長が結びつく取り組みを今後も継続してほしいと思います。



学校関係者評価の結果と今後の課題

続いて、副校長より学校関係者評価の結果について説明がありました。多くの生徒が「学校生活は楽しい」と感じており、その割合は9割近くに達したことは大変心強い結果でした。一方で、生活指導に関する学校からの情報が「保護者に十分伝わっていない」という課題も明らかになり、学校として伝え方を見直す必要性が共有されました。

また、今年度は学習に関する設問方法を大きく変更したため、昨年度との比較が難しく、分析には慎重さが求められています。委員からもこの点について意見がありました。

副校長からは「改善方法を検討し、ホームページで結果を公表するのでご覧ください」との説明がありました。すでに掲載されていたので、ご覧ください。

令和8年度に向けた組織づくり（学校運営協議会）

世田谷区の方針により、来年度からは新しい学校運営組織「学校運営協議会」が本校でも始まります。これに伴い、これまでの学校関係者評価委員会は一度解散し、地域・保護者・学校がより深く関わり合う仕組みへと発展します。

学校運営協議会は8名程度で構成され、教育活動・学習支援、健全育成、学校評価などの実行チームに分かれ、より具体的で柔軟な活動が期待できます。

さらに、PTAでは学校を継続的に支える仕組みづくりの声も案として上がっています。地域と学校が協力して生徒を支えていく動きが広がっていることが、心強く感じられます。

委員からの意見や提案

会議では、従来の活動を新しい実行チームとどのように結びつけるかということや、放課後の学習支援の可能性などについて、委員から多くの建設的な意見が寄せられました。また、将来的には「学校運営協議会そのものを学校関係者評価の対象にしてはどうか」という提案もあり、新しい組織の質を高める視点として重要な指摘でした。

今後の予定

3月6日（金）には今年度最後の学校運営委員会が開催され、来年度の学校経営方針が示されます。また、19日（木）には卒業式が行われ、来年度の4月7日（火）には入学式が行われます。

おわりに

今回の委員会では、学校の現在地とこれから進むべき方向が明確に示されました。生徒の成長を中心に据え、学校・家庭・地域が力を合わせる“ようがの学び舎”らしい姿が、会議の随所に表れていました。これからも、皆さまのお力添えをいただきながら、生徒たちにとってより良い学校づくりを進めてまいります。

今回の内容について、ご意見やご質問がございましたら、学校までご連絡ください。

事務局 副校長 松下 寛 03-3700-5600

地域運営学校の 新たな体制について

～地域のコミュニティづくりに貢献できる学校を目指して～